



図書館だより

図書館運営委員会

～本の名称～

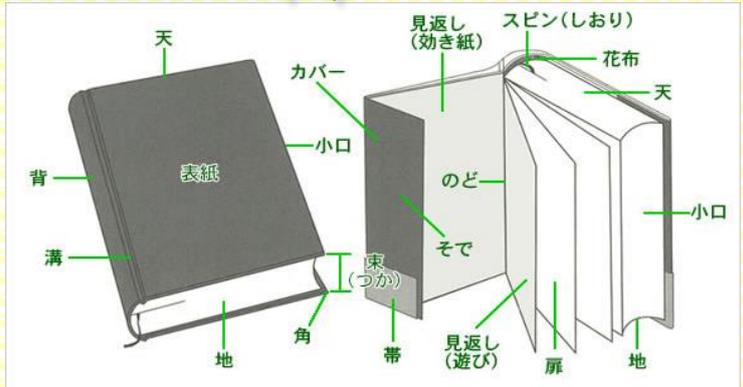
本にもそれぞれ名称があることをご存知ですか？
代表的なものをいくつかご紹介します。
ここで紹介しきれなかったその他の名称等については
是非、図書館で調べてみましょう♪



てんきん
※1 天金



※2 つめかけ



天(てん・あたま)	本を立てた場合、上側になる切り口のこと。天を金色に塗ったものを「天金※1」、色染したものを「天染め」といいます。
小口(こぐち)	本を閉じて見えるページのサイド部分で、一般的には、前小口だけをさします。 本来は「のど」を除いた3方向の辺のことを言い、上の小口を「天」、下の小口を「地」、のどの反対側の小口を「前小口」もしくは単に小口と言います。辞書や事典などで半円形の切り込みを入れたり、各項目の一字目を小口に出したりしたものを「つめかけ※2」といいます。
地(ち)	「天」の反対側で、本を立てた場合に下側になる切り口のこと。(各ページの最下部。)
表紙(ひょうし)	本の中身を保護するための外装。開き始めの側を表(おもて)表紙(びょうし)、反対側を裏表紙と言います。 表紙の種類としては、革で作られた「革表紙」や角を革で覆った「角革(角皮)」、背から数cmのところでは別の革や紙で継いだ「継ぎ表紙」などがあります。
背(せ)	本の閉じられている方(「のど」)に面しているところ。または、その部分を保護している表紙の部分。 通常、背文字が様々なレイアウトで工夫して書かれており、読書欲をそそられるように配慮されています。
のど	本のページの余白部分。本の中身が背に接する部分。
見返し(みかえし)	表表紙の裏側で、表紙の次の印刷のない紙。一般的には表表紙・裏表紙の内側に貼り付けて、本の中身と表紙をつなぎ合わせている「見返し紙」のこと。表紙と本の中身を張り付ける「力紙」「効き紙」と、表紙に貼られていない「遊び紙(遊び)」があります。表紙と本文の間を取りながら本文を保護し、表紙と本文中身を連結させるという役割があるほか、表表紙裏の装備も兼ねています。そのため、見返しには色紙や模様のある紙を用いたり、絵や写真を印刷したり、地図・図表などを入れたりします。
扉(とびら)	見返しの次にある書名や著者名、発行所名などを記してある部分。 2ページにわたっているものを「見開き扉」といいます。上質紙を用いて本文と区別しているものもあります。
カバー	カバー。本のジャケットのこと。昔は本が読者の手に渡るまでの汚損防止用のものでしたが、現在は宣伝・広告もかねて凝ったデザインのものが多くなっています。

～卒業生・修了生の図書館利用申請について～

卒業後も大学図書館を利用することができます。
カウンターで利用申請を行ってください。
調べものや読書に、卒業後も是非ご利用ください！

【貸出条件】

貸出冊数：5冊
貸出期間：30日
延長：不可

更新：1年更新（年度区切り1年間）

※申請時に印鑑（捺印）が必要です。詳しくはカウンターまで。

卒業
おめでとう！

